



みなとユネスコ 会報

Bulletin

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY / MINATO UNESCO ASSN. 16-3, SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004 / HIROSHI NAGANO PRES.
発行所 / 港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 Tel: 03-3434-2300 Fax: 03-3434-2233 発行人 / 永野博
Mail: info@minatounesco.jp https://minato-unesco.jp

2021年12月1日発行 第166号

目次

P. 1 巻頭言	P. 6 凧づくりと凧揚げ
P. 2-3 MUA40周年記念シンポジウム	P. 7 書道体験、坐禅講座
P. 4 盆石	P. 8 事務局便り
P. 5 盆栽	

日本の良さを失うことなく、出る杭を伸ばす社会を作ろう！

港ユネスコ協会 会長 永野 博



技術の進歩は著しく、今や携帯電話がないと何もできない。先日、京王線の駅を出る際にスマホがないことに気づき、駅で忘れ物の届を出したところ、少し先の駅で乗客が届けてくれたことが判明した。去年は都営大江戸線で大事な手帳を落としたが、やはり乗客が届けてくれていた。パリでの何度もの盗難を思いだし、日本は素晴らしいと思うことしきりである。

そこで改めて日本人の行動を考えてみたくなった。まずはマスクである。欧米諸国では、マスク着用令がでたところ暴動に発展しているところがある。コロナ対策で、政府の措置がいかに稚拙であっても他国ほど蔓延しないのは、市民一人一人がマスク、手洗いをしっかりしているからに違いない。

しかし好きでない例もある。最近、家の近くの幅2メートル程度と狭く、車もほとんど通らない場所に信号が設置された。車が停止すればよい場所であり、信号が必要とは思えない。赤でも歩く歩行者が多いが、待っている人もいる。ある時、私が渡ると、そこにある交番の巡査が、他の人が待っているのだから渡らないようにと言う。警察の立場はわかるが、問題が二つある。そもそも信号の必要性を議論する場がなかったということと、横並び発想を注意の根拠とすることだ。ここでは後者について考えてみたい。

今や世界の経済ではスタートアップの支援が最大課題と言ってもいいが、日本では起業が少ない。横並びを破って出てくる杭を出ないように打っていたらいつになっても社会の変革は起こらず、ユニコーンもでてこない。東大で一番スタートアップを出している教授によれば、今でも大学では起業活動に対する本心からの尊敬は乏しいとのことであった。

そこへいくと、各地のユネスコ協会が自らに適した平和を実現するための活動を行うという民間ユネスコ運動は、それぞれの価値観を大事にする草の根運動の姿をよく表している。連合軍による占領の終わる前に日本のユネスコ加盟を実現に導いたボトムアップのパワーは凄い。しかし現在、各地の協会は平和の理念を旗印に活動した方々の高齢化に直面しており、若い後継世代へのユネスコ活動の継承が最大の課題である。東京では若い人を中心にユネスコの精神に共感する仲間を増やそうという「2,000人プロジェクト」が進行中であり、日本の良さを失うことなく、出る杭を伸ばす活動が盛んになることを祈っている。

2021年度 港ユネスコ協会 40周年記念シンポジウム 地域が育てる自然保護区 —ユネスコエコパーク—

共催：港区教育委員会 後援：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、東京都ユネスコ連絡協議会

開催日：2021年11月19日（金）18：30～20：30
会場：国際文化会館 講堂

今回のシンポジウムは、1981年10月17日に発足した港ユネスコ協会の40周年を記念するイベントであった。今回は、会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催された。3名のパネリスト、**磯田博子氏**（筑波大学生命環境系/地中海・北アフリカ研究センター教授）、**酒井暁子氏**（横浜国立大学大学院環境情報研究院教授）、および**ママードウァ・アイダ (Aida Mammadova) 氏**（金沢大学国際機構准教授）からご講話を頂き、その後、総合コメンテーターとして**松田裕之氏**（横浜国立大学教授）に総括をお願いした。以下はシンポジウムの要約である。

コーディネーター 永野博氏（港ユネスコ協会会長）による挨拶で開会した。

港ユネスコ協会では毎年一回、「平和を考える」シリーズとしてシンポジウムを開催してきた。第1回は「気候変動」、第2回「国連 海洋科学の10年」、そして第3回の今年、日本がユネスコに加盟して70周年、MAB計画50周年になるのを記念して、「ユネスコエコパーク」を取り上げる。

続いて、2年に一度のユネスコ総会に出席するためパリに滞在中の**田口康氏**（文部科学省国際統括官）がご挨拶された。また**岡本彩氏**（文部科学省 国際統括官付日本ユネスコ国内委員会事務局）が会場にて以下のご挨拶をされた。

国連海洋科学の10年も始まり、いろいろな節目の年。ユネスコ総会では11月3日をユネスコエコパーク国際デーにすると決定した。都市部の住民の方々もエコパークや生態系の恩恵を受けていることを念頭に置いて頂きたい。

パネリスト 磯田博子氏（筑波大学生命環境系/地中海・北アフリカ研究センター教授）

ユネスコのMAB(Man and the Biosphere 人間と生物圏)計画とは、自然の恵みを守り、合理的かつ持続可能に利用するためのプログラムである。MAB計画の中でも、生物圏保存地域(Biosphere Reserves、略称BR、日本での通称「ユネスコエコパーク」)が主要な活動である。



世界の131か国が加盟、日本では10か所が登録されている。白山、大台ヶ原・大峯山・大杉谷、志賀高原、屋久島・口永良部島、綾、南アルプス、只見、祖母・傾・大崩、みなかみ、甲武信である。これらの地域は厳正な審査基準で選ばれており、(1) 核心地域 (2) 緩衝地域 (3) 移行地域のゾーニングがなされている。最近の動きとして、MAB戦略(2015～2025年)が定められ、その効果的実施のための具体的な行動計画としてリマ行動計画(2016～2025)が採択された。

私は生物資源を対象とした機能性研究にも携わっており、生物多様性の評価、基礎研究への貢献、新産業創出を通じてSDGs目標9「産業と技術革新の基盤を作ろう」と、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」につなげたいと考える。

パネリスト 酒井暁子氏（横浜国立大学大学院環境情報研究院教授）

人為的影響によって自然環境の劣化が世界規模で進行しており、現代は第六の大量絶滅時代と言われる。人間とその社会は自然環境に完全に依存しているので、生態系を大切にしないといけない。豊かな生物多様性が見られる平野や里山を守るにはどうしたら良いか？自然を守る2つのアプローチが考えられる。一つは保護、今一つは自然を「使いながら・使うことで」守っていくという発想で、大きな変革が求められ、特に難しい。これを考える一つの枠組みが「ユネスコエコパーク」になろうかと考える。

ユネスコ本部から、参考になる地域としてドイツのレーン地方を紹介された。発展から取り残された分、絶滅危惧種の宝庫になっている。豊かな風景や生物相が残り、それをエコパークの枠組みの中で再評価し、地域振興に繋げよう、それが人と自然の双方に利益をもたらす、というコンセプトで運営されている。



ネットワークの重要性は最初から認識されており、協力を行うための貴重な場を提供している。日本は東アジアネットワークの一員で、集っているメンバーは、中国、韓国、北朝鮮、ロシア、インドネシア、ベトナムの代表。この光景を見たとき、世界の希望がここにあると思って感激した。

パネリスト ママードウァ・アイダ (Aida Mammadova) 氏 (金沢大学国際機構 准教授。)

私はアゼルバイジャン人、旧ソ連から 30 年前に独立した国で、日本から 8,000km 程離れている。ユネスコエコパーク (BR) には 2015 年から関わってきた。2017 年ユースフォーラムに参加、2019 年若手科学者賞を受賞した。白山 BR は 1980 年、日本で最初に BR に指定された。日本 BR の課題は多い。例えば、後継者や若い世代の不在、雇用の減少、過疎化と高齢化など。BR と GP (ジオパーク) は SDGs の目標を達成出来るのか？



これらを念頭に置いて、金沢大学で「ユネスコエコ・ジオパーク」教育を始めた。2015 年度に始動した本プログラムは、これまで世界からのべ 350 名、20 か国以上の参加実績を持つ、外国人留学生に人気のプログラムとなっている。

Japan-ASEAN Training Course toward SDGs

Learning Japanese culture and Biodiversity from UNESCO Biosphere Reserves in Japan

This program uses UNESCO Biosphere Reserves (eco-parks in Japanese) as a platform to learn about bio-cultural diversity, nature conservation and sustainable development. Cross cultural dialog between Japanese and ASEAN students will be also provided, to discuss about the SDGs. SDGs goals No. 8, 12, 13, 14 and 15, will be focused in the program.

**5 days program:
October 11th (Mon)- 15th (Fri), 2021**

Real-time classes and On-demand classes will be provided

[Main contents]

- Learning about the concept and activities of UNESCO Eco Parks in Japan.
- Group work & cross-cultural event with student from Japan and ASEAN region.

ASEAN 大学ネットワーク(AUN) + SUN/SixERS国立六大学連携コンソーシアム



金沢大学はロシアの 6 つの大学と連携し、付近の 5 つのエコパークに日本人学生 100 人を派遣して地元住民と交流した。2 年前からオンラインで、3 か所の BR との国内連携を開始、日本大学間 MAB ネットワークを立ち上げた。国際ネットワークとしては、中央アジア 4 か国やヨーロッパ 3 国と連携し、続いて東南アジアにも研修コースを広げ、ASEAN 大学ネットワークが出来た。

何故こんな活動をするか？日本の集落には若者がいない。ネットワークを広げて若い人たちを巻き込み、エコパークだけでなく他のユネスコ活動にも貢献できる若者を育てたい。

総合コメンテーター 松田裕之氏 (横浜国立大学教授)

東京都市圏は、みなかみ BR と甲武信 BR の水源に依存している。利根川と多摩川である。ちなみに、横浜の水源は相模川。世界遺産は価値を保存する概念。それに対してオープンな場で価値を創造するのが MAB 計画である。もう一つの特徴は、世界遺産は加盟国政府が守るのに対し、ユネスコエコパークは地元の人や自治体がどう取り組むかを見ている。「人と自然の共生」と日本ではよく言うが、この考え方が MAB 計画とはよく合っていると思う。このコロナ禍において、「野生の動物と接触するから感染症が流行った」という動きがあるが、野生動物と人間が棲み分ければ解決する問題ではない。野生動物と人間はお互いに「怖い」と思っているからこそ共存出来る。この点をご理解頂きたい。



最後に質疑応答があり、パネリストから一言ずつ頂いて、20 時 30 分に終了した。なお、本シンポジウムの詳細は 40 周年記念誌 (2022 年刊行予定) に掲載するので、是非ご参照下さい。

(港ユネスコ協会 副会長 宮下ゆかり)

日本の伝統文化「盆栽」実演と体験

講師 川上佳樹 ((有) 清香園 彩花盆栽教室講師・盆栽レンタル担当)

開催日：2021年11月7日(日) 13時00分～15時30分

会場：港区立生涯学習センター305号室

内容

- ・盆栽の歴史説明
- ・苗の紹介
- ・盆栽の正面と流れの確認(右流れ・左流れ)
- ・鉢に黒松の植え込み
- ・根どめ
- ・苔貼り
- ・完成品への水やり
- ・盆栽の管理方法説明



参加者の感想

- ・先生の教え方が楽しかった。
- ・楽しく体験できた。
- ・なごやかな雰囲気良かったです。
- ・盆栽の良さが感じられました。
- ・又やりたいと思います。次は梅でお願いします。
- ・楽しいです。小宇宙を体験しました。
- ・何も持参するものもなく、至つくせりのセミナーでした。
- ・初めての盆栽でしたが楽しかったです。



ひとこと

盆栽は、近世から現代にかけて日本の文化として根付いてきました。今日では「BONSAI」として世界に人気があります。盆栽愛好家が世界各地から集まるところが大宮の盆栽町です。その中心を担っているのが江戸末期からの歴史を持つ清香園です。清香園の講師、川上氏の分かりやすい説明と実演を受けることができました。盆栽には正面があり、その枝も右流れ、左流れがあるようです。質問コーナーでは、講師が最後まで丁寧に答えてくださり、感謝の拍手で終了しました。2022年正月、手作りの黒松の盆栽が参加者の新しい年を祝ってくれることを祈っております。



(港ユネスコ協会 副会長 平方一代)

日本の伝統文化「盆石」実演と体験

講師 水野賀弥乃 産業カウンセラー・ゲシュタルト・セラピスト
窪田麻里 フラワーデザイン教師

開催日：2021年10月17日（日）13時00分～15時30分
会場：港区生涯学習センター305号室

当日の受講者は中国人1名、会員2名を含む30名で、これに講師2名、スタッフ3名で対応しました。「盆石」とは黒塗のお盆の上に、白鳥や鷹の羽、匙など専門の道具を用いて、石や白砂によって山海の雄大な景を打つものです。盆石の制作ではこの造形過程を「打つ」と言います。白鳥や鷹の羽、銀のお匙、小さな箸とふるい等に加え、匙と小枝のような繊細な道具が使われます。室町時代の足利義政から千利休、細川忠興などを通して整えられ、日本独自の文化として発展を遂げてきました。

内容

- ・盆石の歴史説明
- ・道具の説明
- ・講師の実演
- ・各自体験

参加者の感想

- ・良かった。歴史的な解説もよく実演が素晴らしかった。
- ・楽しかった。また参加したい。
- ・体験してよかった。
- ・珍しいことでした。
- ・さわつてみて難しかった。
- ・大変満足した。
- ・羽の使い方、石の配置で、景色がかわる事に感動した。



窪田先生(左)と水野先生



窪田作品



水野作品

ひとこと

募集20名のところ応募が多くて30名の受け入れとなりました。盆石事業は昨年実施したところ、「またやって欲しい」とのリクエストを頂き、2回目の開催です。キャンセル待ちの方もいらっしゃるほどの人気でした。講師の水野賀弥乃先生、窪田麻里先生は、八代梅和先生（高松宮様などをご指導）のお弟子さんです。お二人の芸術的な羽さばきを身近に見学できる喜びが教室に広がり、終始穏やかな雰囲気の中で開催することができました。



羽さばきの模範



道具の指導

(港ユネスコ協会 副会長 平方一代)

日本の伝統文化「凧づくりと凧揚げ」

講師 福岡正巳（凧の博物館 日本凧の会事務局長）

開催日：2021年11月28日（日）13時00分～15時30分

会場：港区立青山小学校

内容

- ・ 凧の歴史説明
- ・ 講師から凧づくりの説明
- ・ 和紙に各自好きな絵を描く
- ・ 和紙に竹の骨組みをボンドで貼り付ける
- ・ 完成した自作の凧を運動場であげる

参加者の感想

- ・ 楽しかった。
- ・ 凧づくりは初めてでしたが、簡単でした。
- ・ 親子での参加ができてよかった。
- ・ 良い思い出になった。
- ・ 貴重な体験をさせていただき感謝します。



ひとこと

募集 30名のところ大変な人気で、最終的には70名の参加者となりました。理科室と会議室とにグループ分けして作業しました。ほとんどが親子での参加で、2歳未満の女の子も一生懸命にお絵描きしました。富士山、ひまわり、鬼滅の刃の衣装市松模様など、好きな絵をクレヨン、水生ペンなどで描きました。

完成後、人工芝の運動場で一斉に凧揚げをしました。

好天に恵まれ、事故もなく無事に終了する事ができたことを嬉しく思います。高須賀副校長先生のご配慮を頂き、歴史ある青山小学校で開催することができましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。なお、当日の様子は、J:COMチャンネルでTV放送されました。（12月2日放送、12月3日再放送）



（港ユネスコ協会 副会長 平方一代）

書道体験教室

講師 金田翠夢先生（毎日書道展会員）

開催日：2021年9月26日（日）13：00～15：30

会場：港区立生涯学習センター305号室

内容

- ・書道の歴史説明
- ・色紙に好きな字を清書する

参加者の感想

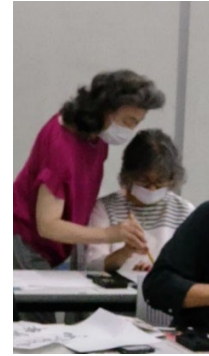
- ・久しぶりの書道に触れる事ができ楽しかった。
- ・先生のご指導が良く勉強になりました。
- ・良い思い出になりました。

ひとこと

先生のご指導が素晴らしく、皆様のご短時間での上達には感心しました。



(港ユネスコ協会 常任理事 笠原正子)



開催日：2021年11月22日（月）18:00～19:45

会場：港区内萬年山青松寺

今回の坐禅講座はコロナ禍での開催となったため、寺院側と相談の結果、感染リスクを最小限にするため参加者を少人数に抑えた。当日は小雨の降るなか、13名の方が参加された。

渡部委員長が司会を務めて進行し、はじめに青松寺ご住職の挨拶を頂いた。次いで釜田無関師から坐禅講義と坐禅体験の講話を受けた。

参加者から得たアンケートには全体的に「参加して良かった」との印象が表明されていた。具体的には「普段なかなか体験出来ないのでも面白かった」、「今後の坐禅講座の取り組みに興味があった」、「港ユネスコ協会の運営する他の事業に興味をもった」など。



(港ユネスコ協会 副会長 菊地賢介)

事務局便り

【法人会員募集】

本年9月より、会員開発委員会を中心に、法人会員の募集を開始致しました。入会日順にご紹介します。

9月15日 株式会社 THE FP コンサルティング様

渋谷区のセルリアンタワーにオフィスを構え、不動産や相続、保険などのファイナンシャルプランニング業務をされている会社です。社長の峰尾様は当協会の個人会員でもあります。

11月16日 株式会社オカモトヤ様

港区虎ノ門1丁目にオフィスを構え、OA機器、事務用品、印刷物などの品物のほか、ネットワーク工事など、オフィスに関すること全般を取り扱われている会社です。

【ようこそ新入会員】

法人会員：株式会社 THE FP コンサルティング様、株式会社 オカモトヤ様、個人会員：渋谷恵さん、
家族会員：児玉佳子さん

【開催中の事業】

- ☆日本語講座 田川純子先生 10/2 スタート (土曜日・10:00~11:30) 10回
 - ☆中級英語講座 中沢萬佐雄先生 10/5 スタート (火曜日・18:30~20:00) 10回
 - ☆ビジネス英会話講座 金森尚人先生 9/27 スタート (月曜日・18:30~20:00) 9回
- 開催場所：いずれも港区立生涯学習センター3階 港ユネスコ協会事務局内

【今後の事業予定】

- ☆1月30日(日) 9:30~16:00 クルーズ船とバスで東京探訪！「東京の森川海を知る」
集合場所：日の出棧橋 Hi-node
講師：佐々木剛氏 (東京海洋大学海洋政策文化学科 教授・水産学博士)
対象：小学5・6年生、中学、高校、大学生および会員 (小学生は保護者1名同伴)
- ☆2月19日(土) 12:00~15:30 世界の味文化紹介「韓国のお家庭料理」
会場：港区立男女平等参画センター「リーブラ」料理室
講師：金仁雅氏
- ☆3月6日(日) 13:00~15:30 盆栽教室
会場：港区立生涯学習センター305号室
講師：川上佳樹氏 (有限会社清香園)

【ご寄付、ありがとうございました】

★株式会社オカモトヤ 代表取締役社長 鈴木眞一郎氏 10万円、永野会長 10万円、田部副会長 10万円、奥村副会長 6万円、菊地副会長 6万円、平方副会長 6万円、宮下副会長 6万円の寄付を頂戴しました。

【事務局の一時閉鎖について】

港ユネスコ協会事務局が事務所を置いている港区立生涯学習センターは、施設の老朽化に伴い改修工事が行われます。そのため令和3年12月1日(水)から令和4年2月28日(月)までの3か月、休館となります。これに伴い、この期間、当協会の事務局も一時閉鎖となります。

事務局業務については、事務局長、事務員とも、それぞれ自宅で対応致します。対応時間は、休館期間の通常勤務時間帯、祝日を除く火曜から金曜の10:00~17:00です。

メール対応等パソコンでの業務は通常通り自宅で行いますので、ご連絡等、必要な場合は、メールで送信をお願いします。直接お話しが必要な場合は、この期間は、事務局への電話は携帯電話に転送されますので、協会の電話番号におかけ願います。

ご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願い致します。

港ユネスコ協会事務局 火曜日～金曜日(祝日を除く) 午前10時～午後5時

〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL03(3434)2300 TEL・FAX03(3434)2233

Eメール：info@minatounesco.jp ウェブサイト：<https://minato-unesco.jp>

